

## 学級集団に及ぼす教師の影響過程に関する研究

三島 美砂

**【問 題】**今日の教育現場では、学級崩壊やいじめ、不登校等の課題が山積しており、これらの問題の最前線に立つ学級担任教師には、適切な指導力や影響力が今まで以上に求められている。三島・淵上（2010）は、教師の指導行動は、①学級集団全体を対象にした指導行動、②学級集団の中にいる児童個人を対象にした指導行動、③個別指導時の児童個人を対象にした指導行動の3つに分かれるとし、これらの指導行動に対しては、潜在的影響力である勢力資源や教育信念が大きく影響することを指摘している。このようなことから、本研究では、学級集団（学級雰囲気）に対して、教師の教育信念、勢力資源、3つの指導行動がどのように影響を及ぼしているのか、そのプロセスを明らかにしていくこととする。

**【方 法】**調査時期 2010年11月。対象者 岡山県・京都府・新潟県・高知県・兵庫県内の教育学部の学生343名。質問紙 過去に1週間以上関わった小学校（実習等）を想起してもらい、学級雰囲気、教師の教育信念、勢力資源、指導行動のそれぞれについて回答を求めた。教育信念尺度のみ7件法、その他は5件法で回答を求めた。

**【結果及び考察】**学級雰囲気の因子分析 三島・宇野（2004）を参考に作成した10項目について主因子法プロマックス回転をおこない、固有値の減衰状況と解釈可能性について検討し、「規律」、「協働」の2因子解を抽出した。教育信念 教育信念6項目について主因子法でプロマックス回転を実施した結果、1因子解を示した。教師の勢力資源（潜在的影響力）の因子分析 教師の勢力資源15項目について、主因子法プロマックス回転で因子の抽出をおこなった結果、三島・淵上（2010）と同様の「自信・一貫性」、「親近・明朗性」、「受容」の3因子が抽出された。教師の指導行動 3つの指導行動の場面ごとに各項目の平均値を算出した。パス解析 教育信念、勢力資源、指導行動、学級雰囲気の関連を検討するため、階層的重回帰分析をおこなった。教育信念と「自信・一貫」、「親近・明朗性」、「受容」の3つに正の強い関連が示されたことから、教師は教育信念を有することで、自信のある一貫した態度や親しみのある態度、公平で受容的な態度が生み出されやすいことがうかがえる。①の指導行動に対しては3つの勢力資源から有意な影響が認められた。②に対しては、「自信・一貫」と「受容」からの影響が認められた。また、③に対しては、「親近・明朗性」、「受容」との関連が示された。さらに、「協働」に対しては教育信念、「親近・明朗性」、②の指導行動から有意な影響が認められた。教師は、教育信念を基盤に、普段から自信のある一貫した態度、公平で受容的な態度を示して、学級集団の中にいる個人への指導行動を有効にし、個人への影響のみならず、その指導を見ている学級の児童にも影響を与えているのであろう。「規律」に対しては、教育信念、「自信・一貫性」、「親近・明朗性」からの影響が認められた。